

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 大分上野丘 高等学校	
学校教育目標	「実力」と「気品」と「たくましさ」の体現 県内で最も古い歴史を持つ普通科高校として、「実力と気品とたくましさ」の校訓のもと、個性や能力を最大限に伸ばす教育活動や互いに高め合い磨き合う学びを通して、豊かな人間性を育み、未知なる課題の解決に果敢に挑戦する地域や国際社会のリーダーとして必要な力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・重点目標の焦点化と校長のリーダーシップのもと、教職員の共通理解に基づいた組織運営がなされており評価できる。 ・上野丘独自の視点で再構成した学校教育目標に基づき、その達成に向けた校内分掌体制が構築されている。 ・自主性を重んじる「任せる指導」が浸透しており、生徒が意欲的に挑戦し成長を実感できる環境が構築されている。 ・学年間の交流機会をさらに拡充することで、生徒相互の刺激によるさらなる成長や校風の継承が期待される。	・引き続き学校教育目標の実現に全教職員で取り組んでいく。 ・スクール・ミッションにあるように、個性や能力を最大限に伸ばす教育活動や互いに高め合い磨き合う学びを通して、豊かな人間性を育み、未知なる課題の解決に果敢に挑戦する地域や国際社会のリーダーとして必要な力を育成していく。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなど P D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・前回の指摘事項(主体性、社会性、国際性の育成)について、適切に対応されている点は評価できる。 ・教員の個々の力量に依存した体制を改革することで、教員の負担軽減と生徒対応の質の向上が期待される。 ・分掌体制を最大限に活用し、目標達成に向けたPDCAサイクルが継続的に図られている状況が見受けられる。 ・行事や模試との重複による生徒の負担を考慮した、土曜講座等の柔軟な日程調整が期待される。	・分掌等での組織的体制において、教員の負担軽減を意識したマネジメントを推進していく。 ・学びの質の向上が図られるよう、生徒負担も考慮した行事計画を練っていく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・積極的な情報発信が行われており、年間行事や部活動の成果が社会に広く認知されている点が評価できる。 ・140周年記念で確認されたOB・OGとの強固な連携に加え、北海道や台湾との新たなネットワーク構築が図られている。 ・保護者アンケート、地域人材等の活用を通じ、社会との接点を重視した教育活動が展開されている。 ・大分市内の中学校をはじめとする県内中学校へのさらなる積極的な情報発信が望まれる。	・中学生やその保護者等へ、今後も積極的に情報を発信していく。 ・生徒や保護者対象のアンケート等を実施し、的確にニーズを把握して学校運営に反映させる。 ・今後も、OB・OG等との連携を通じて、新たなネットワークの構築を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・生徒は高いモチベーションを持って授業に臨んでおり、前回と同様に積極的な姿勢は大いに評価できる。 ・生徒へのアンケート等を通じてiPadと紙の資料を使い分けするなど、柔軟な授業運営が行われている。 ・授業内での挙手や自発的な発言が少ない傾向にあり、教員からの指名を待つ受動的な状況が見受けられた。 ・発言の意義や目的を生徒に再認識させることで、より円滑で組織的な対話型授業の構築が期待される。 ・ICT機器や多彩な資料を効果的に活用しており、単なる伝達に留まらない授業の工夫が見受けられる。 ・授業の目標やねらいを生徒と明確に共有し、主体的・意欲的な学習を促すことで、授業の質の向上を求める。 ・机間巡視による生徒の思考変容や躰きの把握が不足しており、生徒主体の視点を取り入れた授業改善を望む。	・教科会議等で、授業の質や学力の向上に向けた授業改善を推進し、生徒が主体的・意欲的に学ぶことのできる環境を構築していく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・良い。 ・学習不振を要因とする不登校生徒に対し、適切な支援実績が報告されており、その柔軟な対応は評価できる。 ・LGBT等に配慮した私服登校の導入や生徒会と連携した規定策定など生徒の安心感を高める対応は評価できる。 ・不登校生徒への具体的な支援内容をより明確に提示し、生徒・保護者の更なる安心感に繋げることが期待される。 ・情報共有の徹底と専門機関との連携を強め、組織全体で不登校支援をさらに充実させて行くことが期待される。	・不登校生徒等へ適切な支援ができるよう、専門機関とも適切な連携を行い組織全体で効果的な支援を充実させていく。 ・職員研修などを通して、教職員の理解を深め対応できる環境を作る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・防犯カメラの設置や壁面の補修など、前回の指摘事項に対して迅速かつ柔軟に対応されている点が評価できる。 ・生徒会との意見交換を通じ、生徒の不安や不満が解消され、教職員との信頼関係が構築されている。 ・自転車事故防止に向けた積極的な取組が展開されており、生徒の安全確保に向けた意識向上が図られている。 ・生徒自身が自らの身を守る方策を学ぶ講座の開設など、さらなる危機管理体制の強化に向けた取組が望まれる。	・校内の安全点検については、引き続き日常的に実施していく。 ・生徒会の要望、保護者のアンケート等をもとに、必要に応じた迅速な対応を行う。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・校長の明確なビジョンのもと、迅速な組織運営により着実な学校改善が進んでいる点は評価できる。 ・教職員の実情に即した柔軟な改革により、共通理解に基づいた組織運営が見受けられる。 ・働き方改革が全校的な視点から推進されており、教職員の負担軽減に向けた組織的な取組は高く評価できる。 ・業務の「スクラップ＆ビルド」を加速させ、教育の質の保証を担保した持続可能な教育体制の構築が望まれる。	・更なる業務の効率化を目指し、目的や目標に応じ業務の見直しや改善を適宜進める。 ・校内衛生委員会において、年次有給休暇等が取得しやすい環境について協議し、更なる働き方改革を推進する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○進学力のさらなる向上 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・県民や保護者の高い期待に応えるべく、進学実績と学校の質の更なる向上に向けた継続的取組が求められる。 ・保健室利用の要因を、外傷と精神・学力面に区分して集計し、詳細な原因分析と改善が求められる。	・「授業改善の推進」、「学習習慣の確立」、「ICT教育の推進」の体現により、主体的な学びによる実力の伸長を推進する。 ・保健室利用の実態をデータでも分析し、利用の減減に向けた未然防止策を検討する。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の勉学やスポーツに対する高いモチベーションと挑戦する姿勢は極めて高く、少子化においても安定した志願者を確保している点は、本校の明確な魅力として評価できる。 ・質の高いコミュニケーションを通じて教職員と生徒の間に強固な信頼関係が構築されており、意欲的で前向きな生徒が多数在籍している状況が見受けられる。 ・校長の適切なリーダーシップのもと、全教職員が大分上野丘高校の果たすべき役割を深く認識し、組織的な協働を通じて教育目標の達成に邁進している姿勢は高く評価できる。 ・140年の歴史を誇りつつも、その伝統に安住することなく、時代の変化に合わせて柔軟に成長・変革し続けることを期待したい。 ・現状の成果に満足することなく、難関大学への合格実績をはじめとする進学指導体制の更なる強化と、目標達成に向けた不断の努力を期待したい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や国際社会のリーダーとして必要な力を育成するため、「実力の伸長」、「社会性の育成」、「グローバル人材の育成」の体現を推進する。 ・「実力の伸長」を中心に据えたカリキュラム・ポリシーに変更し、授業を含めた教育活動全体を通じて主体性・社会性の育成、キャリア教育の推進等を行う。 ・私服導入の意義を理解したうえで、制服・私服ともに気品ある着こなしの実践を推進する。 ・教育相談体制を更に充実させ、安全安心な学校生活に繋げる。 ・教育の質の保障を担保した持続可能な教育体制の構築に向け、教職員のワークライフバランスの充実を推進する。 			